

(2) 工作物

■ 本編 53 ～ 177 ページ

① 共通

景観計画における形態意匠の基準

工作物の外観は、視点場からの見え方に十分配慮した配置、形態、意匠とし、周辺の街並みとの調和を図る。

①～⑬ 景観計画重点地区

工作物 1 の外観は、その地域の景観特性に応じて、周辺の街並みとの調和を図る。

⑭ 一般区域

■ 解説

工作物は、建築物と同様に景観を構成する重要な要素です。工作物は、煙突やガスタンク、橋りょう等の大規模な構造体から、日よけ・雨よけ、自動販売機まで、大小様々であり、景観に与える影響の度合いは異なります。

各工作物の配置や形態、デザイン等を工夫し、周辺景観への影響を極力軽減するよう配慮します。

② 携帯電話等基地局アンテナ

景観計画における形態意匠の基準

平和記念公園から見えない位置に設置する。また、できるだけ他の視点場から見えない位置に設置するとともに、外壁又は屋根と同色で着色するなど目立たないように工夫する。

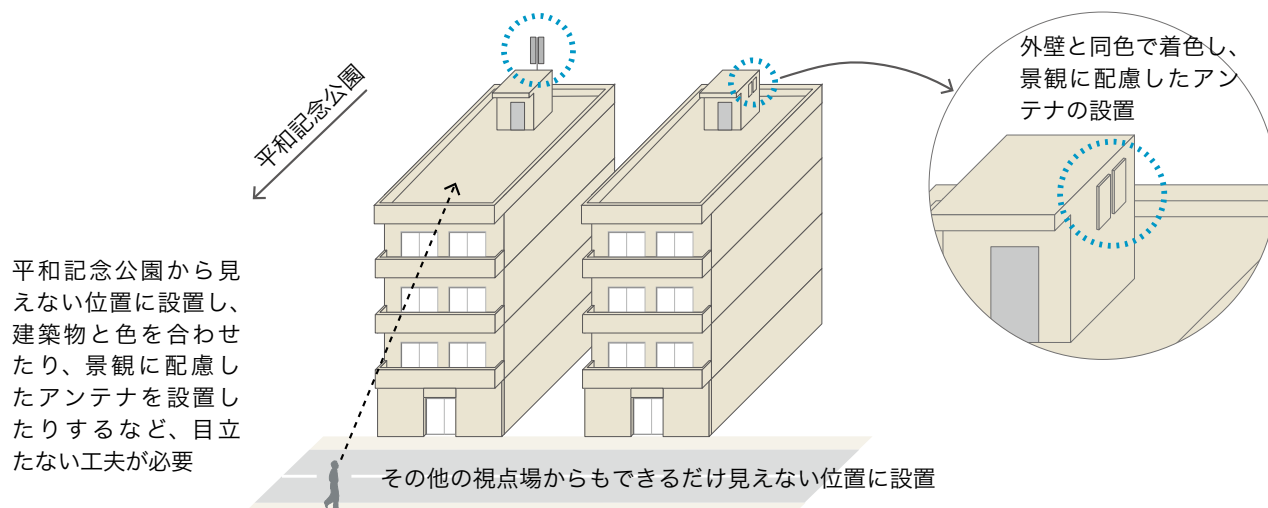
①～⑬ 景観計画重点地区

■ 解説

近年、建築物の屋上等への設置が増加しつつある携帯電話等基地局アンテナは、視点場からの見え方によっては、景観を損なうおそれがあります。そのため、各地区の特性に応じて、景観への配慮が必要です。

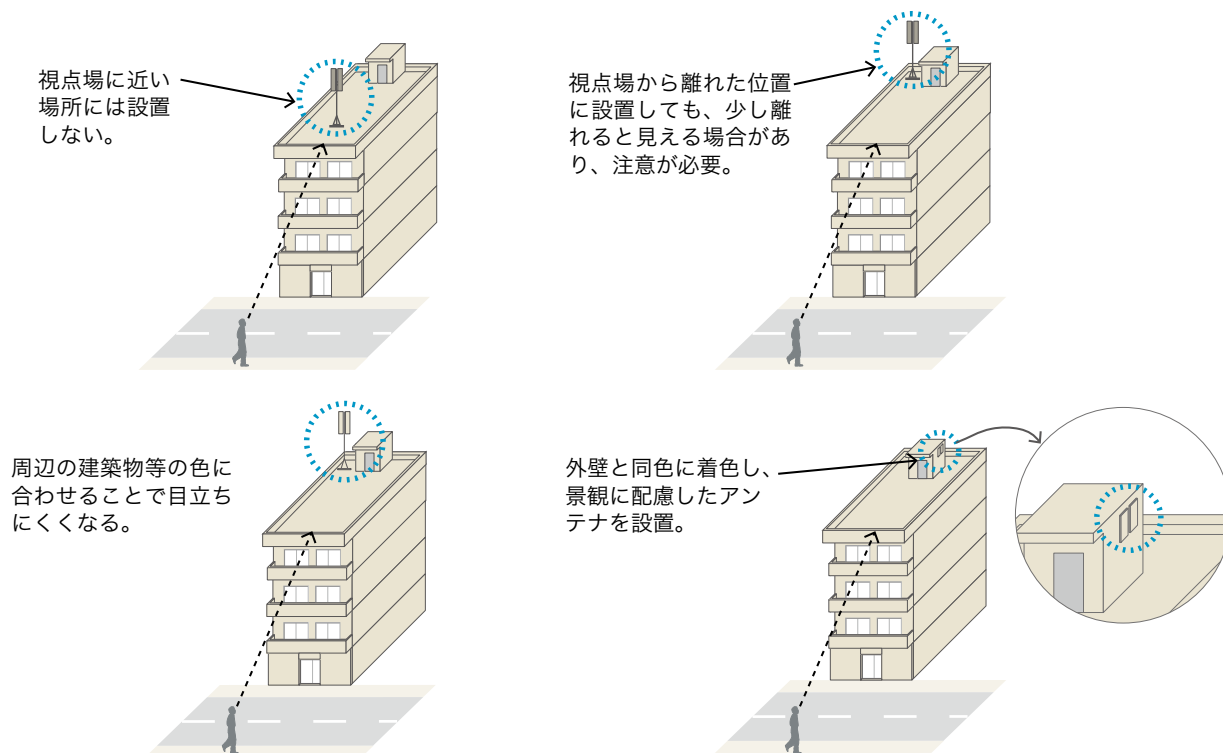
【平和記念公園から見えない位置に設置】

携帯電話等基地局アンテナは、平和記念公園から見えない位置に設置することとし、その他の視点場等からもできるだけ見えない位置に設置するとともに、目立たない工夫をします。



【通りや河川、その他の視点場からできるだけ見えない位置への設置や目立たない工夫】

平和大通り、相生通り、鯉城通り、河川及び対岸等の視点場からの見え方に配慮し、できるだけ見えない位置への設置や目立たない工夫をします。



③ 時間貸し駐車場等

景観計画における形態意匠の基準

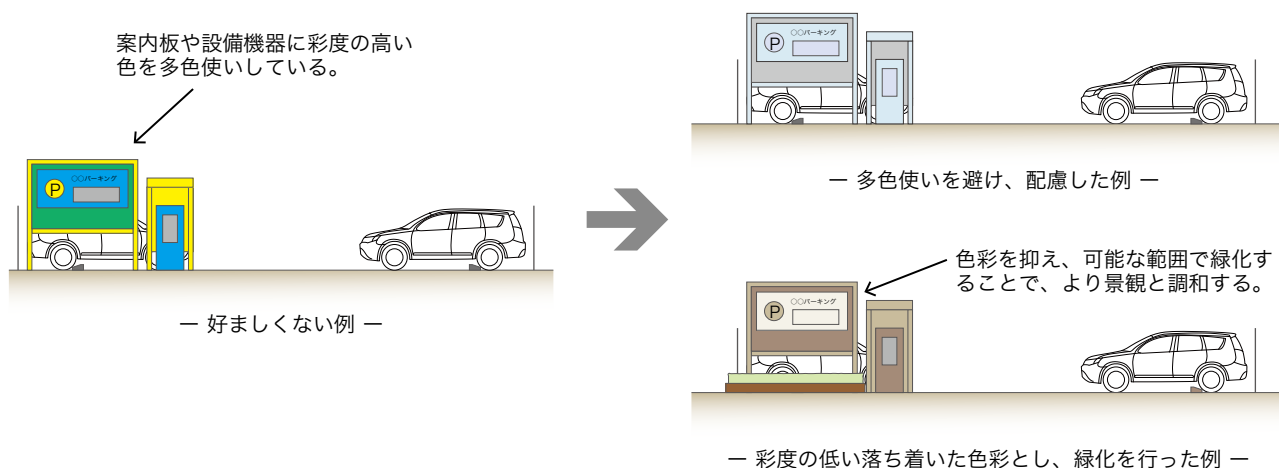
舗装面や機器類などは、周辺景観との調和を図る。

①～⑬ 景観計画重点地区

■解説

コインパーキング等は、原色を使った案内板や機器類等が使われることが多く、景観を損なうおそれがあります。

そのため、案内板や機器類、舗装面について周辺の景観に配慮した色彩を使用するなど、周辺景観との調和に配慮します。



④ 機械式自動車車庫

景観計画における形態意匠の基準

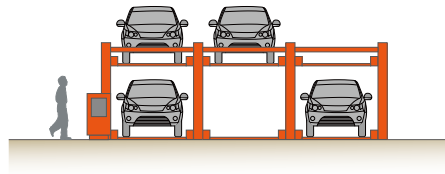
できるだけ通りから見えない位置に設置するとともに、目隠しや緑化などにより修景する。

①～⑬ 景観計画重点地区

■解説

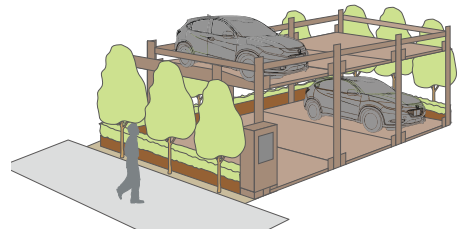
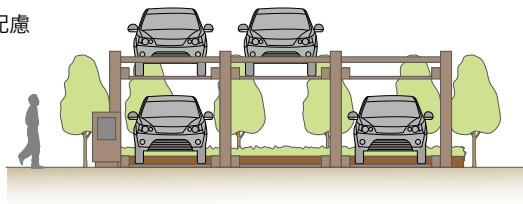
機械式駐車場設備は、無機質な構造体がむき出しになることが多く、景観を損なうおそれがあります。そのため、構造体や自動車、設備等が通りから見えないよう配置を工夫し、目隠しや緑化等により、周辺景観との調和に配慮します。

むき出しの躯体や機器は、無機質な印象を与え、街並み景観を損なう。



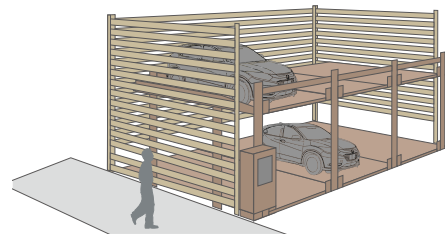
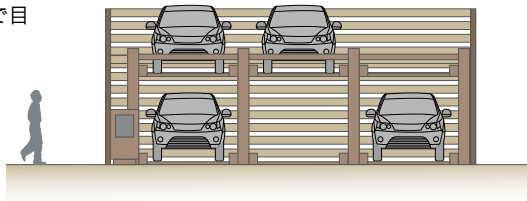
緑化による修景

周囲を緑化し、景観に配慮



目隠しによる修景

周囲をルーバーなどで目隠し、景観に配慮



目隠しと緑化による修景

周囲をルーバーで目隠しし、合わせて緑化を行い景観に配慮



ルーバーによる目隠しと緑化を組み合わせた例

⑤ 擁壁

景観計画における形態意匠の基準

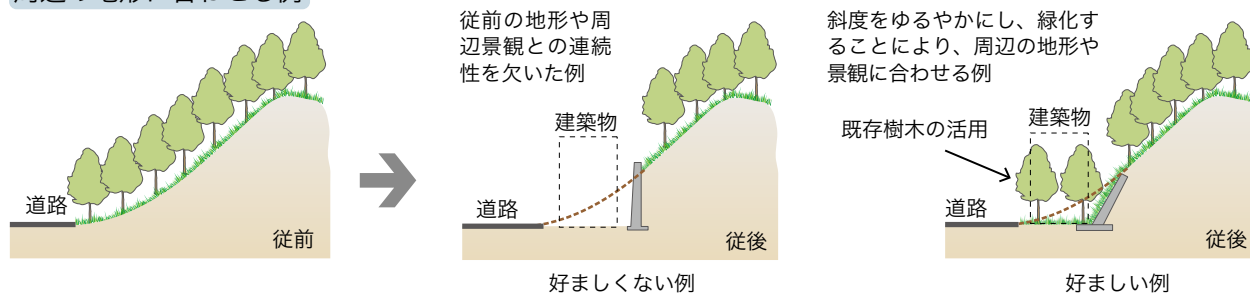
擁壁の形態を周辺の地形に合わせるなど、周りの景観に溶け込むような工夫や修景を行うことによって、周辺景観との調和を図る。

①～⑬ 景観計画重点地区

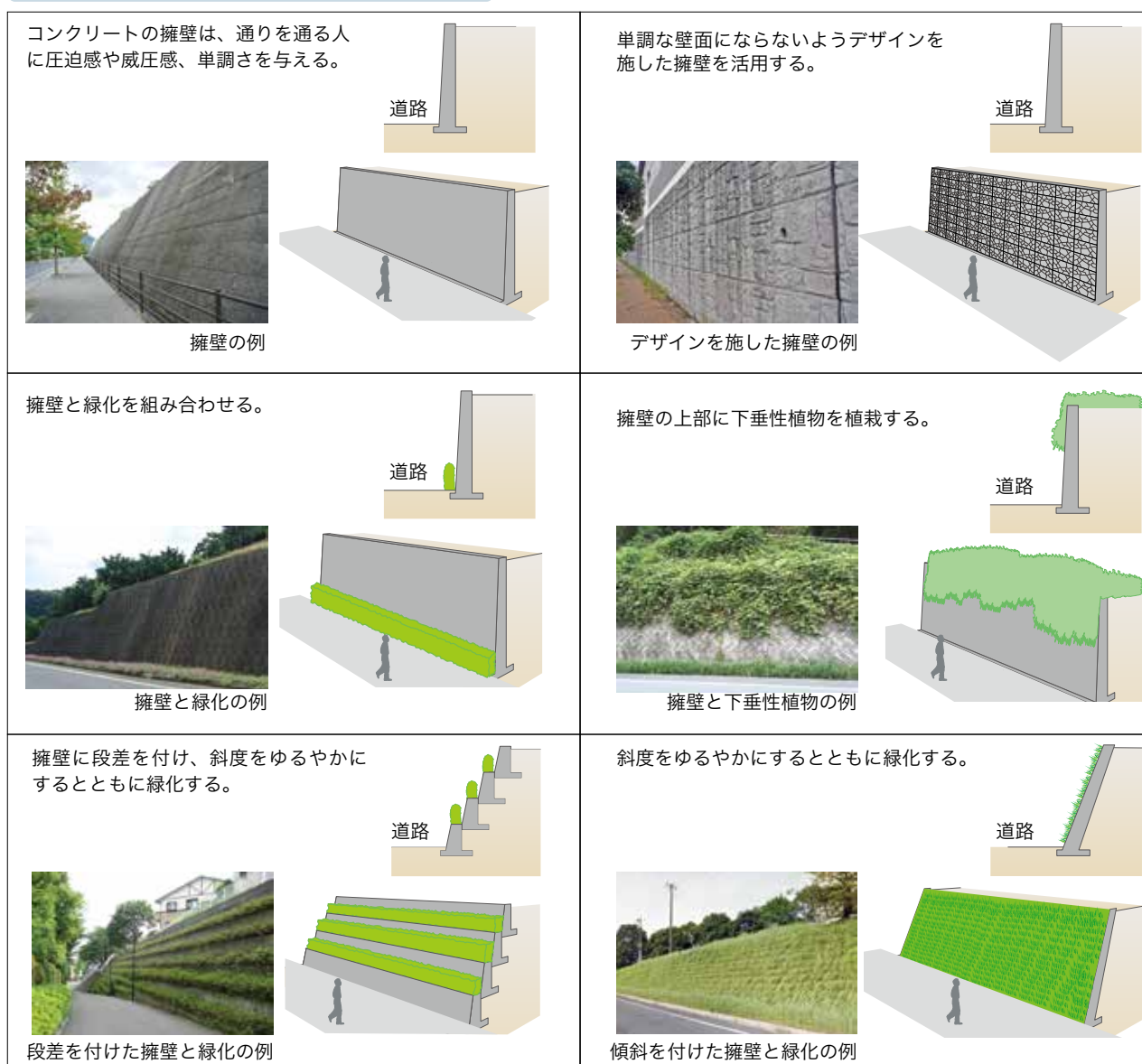
■解説

単調な壁面を有する擁壁は、圧迫感を与えてしまいます。そのため、斜度をゆるやかにし、擁壁の素材として間知石や自然石等を使用するなどの工夫、緑化や花植え等により、圧迫感の軽減と周辺景観との調和に配慮します。

周辺の地形に合わせる例



擁壁の圧迫感や威圧感、単調さを軽減する例



⑥ 塀、柵

建築物の形態意匠の基準の「④ 塀、柵」(P29)を参照してください。

⑦ 橋りょう

景観計画における形態意匠の基準

橋りょうが位置する河川又は港湾の特性や河岸又は海からの見え方に配慮するとともに、周辺環境との調和を図る。

リバーフロント・シーフロント地区のエリア

- ①原爆ドームおよび平和記念公園周辺地区
- ②平和大通り沿道地区
- ⑦リバーフロント・シーフロント地区
- ⑩広島駅南口地区
- ⑫都心幹線道路沿道地区

■解説

河川や港湾に架かる橋りょうは、遠方からもよく見通すことができ、デザインのバリエーションが多様なことから、その空間を特徴づける重要な景観要素となっています。そのため、良好な景観形成の先導的役割が期待されますが、一方で、地域によっては、主張を抑えた周辺景観に溶け込むデザインが期待される場合があります。

こうしたことから、橋りょうのデザイン検討に当たっては、位置する河川の特性や河岸からの見え方に配慮するとともに、周辺景観との調和を図るなど、様々な観点からの検討が必要です。

なお、耐候性鋼材を使用する際は、色彩(テクスチャー)が市街地の景観になじみにくい場合もあることから、慎重な検討を行い、景観への配慮が必要です。

景観形成の先導的役割を担っている橋りょうの例



太田川大橋



鶴見橋



この橋は、デザイン提案競技を行い、国内外から多くの提案を受け選定したもので、広島湾や厳島など周辺景観との調和に配慮した秀麗なデザインです。

この橋は、「緑の都市軸」を形成する平和大通りと都心部にありながらも豊かな自然を有する比治山公園とを結ぶ橋にふさわしい、羽根を広げた鶴のイメージをもたせた秀麗なデザインです。

周辺景観に溶け込むデザインとなっている橋りょうの例



中広大橋



東広島橋

⑧ 工事現場の仮囲い

建築物の形態意匠の基準の「⑭ 工事現場の仮囲い」(P39)を参照してください。